



NPO 法人ファミリーサポート 愛さん会ニュース

2021.8.23 No.80

発行者

NPO法人ファミリーサポート愛さん会

新責任者 平良 博子

〒902-0075 那覇市国場 221-2

TEL(098)851-7304

コロナ禍における働き方とは！

「コロナ禍以前の働き方の課題トップは「良好な人間関係」であったが、「コロナ禍以降は「多様な働き方」へと変化しました。」

「コロナ禍以降における新たな課題として「私生活との両立」がフロンティアしています。仕事とプライベートの線引きや勤怠管理の問題など、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務により課題として新たに上がってきたものと考えられます。」

「コロナ禍以降従業員から解決要望が増えた課題について、『コロナ禍前後の組織課題について』の「コロナ禍以降の課題」と同様「1位は「多様な働き方」であった。」

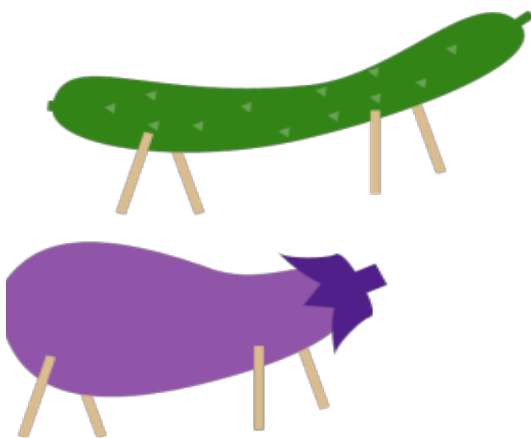
人事総務担当者が「今後注力したい課題」については『「コロナ禍前後の組織課題について』の「コロナ禍以降の課題の1位である「多様な働き方」と2位の「良好な人間関係」が同率で最も多い回答となりました。」

「コロナ禍で大きく変わった働き方に対する意識。企業の業態も規模も様々であり、変化の方法も、課題も様々です。」

そんな変化や課題に柔軟に対応できる人材が今後は必要とされるでしょう。自分が生きている業界が生き残るためには何が必要なのか、これから何が必要とされるのか敏感に情報を察知していかなければなりません。

また、これから就職活動や転職活動をする方は、応募する企業が「コロナ禍でどのような施策をとったのか」等も企業を選ぶ際の条件になる等、企業にとっても働き手にとっても多くの課題を残した新型「コロナウイルス」。今いる場所での変化を考えるもよし、求められる変化がある場所へ移るもよし。

働き方は様々ですが、少しでも変化を理解し、適応することができれば行動が変わり未来も変わります。ピンチをチャンスととらえ頑張りましょう！



お盆とは！

お盆は正式には『盂蘭盆会』と言います。お盆の行事は『盂蘭盆経』に説かれている、目連尊者の話に由来します。目連尊者はお釈迦様の弟子の中でも神通力が一番でした。ある日目連尊者はこの神通力を使って、母親の死後の世界を覗いてみました、すると母親は餓鬼道に落ちて飢えと渇きに苦しんでいました。そこで目連尊者はお釈迦様にどうしたら母親を救えるか尋ねてみました。するとお釈迦様は『お前の母親は生きていたとき、物惜しみをして他人に施しをしなかった、代わりにお前が布施行をしなさい』と言われました。

一口メモ



「くすぐったさ」って何？

どうしてくすぐたいという感覚があるのでしょうか？くすぐったさは、人だけではなくほかの動物でも感じられる感覚です。動物の進化の過程で「痛み」から「かゆみ」が生まれ、そしてさらに派生的に進化して生まれたのが「くすぐったさ」だといわれています。

くすぐったさの特徴は、他人からくすぐられる必要があることです。これについては、古くはアリストテレスが論じています。自分を自分でくすぐってもくすぐたくなのは、自分でくすぐっているのを知っているからです。

他人からくすぐられるとくすぐたく感じるの、くすぐられるのを予期できないからだとしています。物理的には全く同じ刺激を与えているにもかかわらず、自分でくすぐってみると意外なほどくすぐたくはありません。自分でくすぐってみて笑い声を上げる人はほとんどいないのです。その理由は脳の働きにあります。

人にくすぐられるときは、くすぐられた部位の触覚や圧覚などの刺激情報が脳の体性感覚野に達し、くすぐったさを感じます。ところが、自分で自分をくすぐるときには、小脳から自分の指を動かす指令が出るのと同時に、体性感覚野へ感覚を抑制する命令がいきます。なぜ抑制する必要があるのか、それは、くすぐったさは元々、虫や寄生虫など外からの刺激を感じるためのものであるため、自らが生み出す刺激とは区別する必要があるからです。